



北の大地で開催 第58回全国植樹祭

初夏のそよ風が心地よい、
去る6月24日、
「明日へ 未来へ 北の大地の森づくり」
をテーマに、
苫小牧市静川にある
つた森山林隣接地をメイン会場として、
第58回全国植樹祭が開かれました。



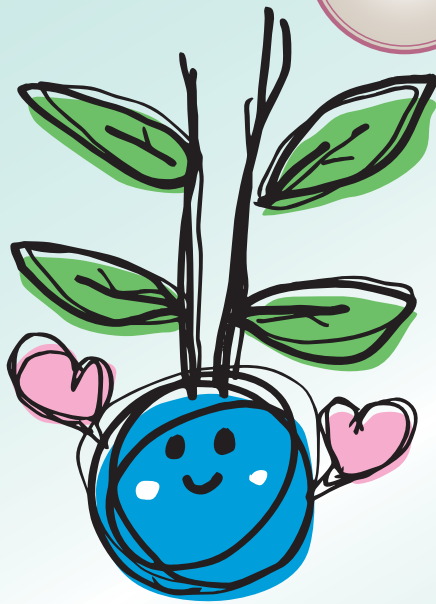


展示・販売ブースはどの店も賑わいを見せていました



式典を彩る、北海道警察音楽隊などによる演奏

今回の
シンボルマーク



め もりー
【芽森】

公募で選ばれたシンボルマーク。長野県・川本智さんのデザインと、北海道・藤原則子さんの愛称が選ばれました。北海道の「北」の文字と苗木がモチーフとなり、1本の「芽」から緑豊かな「森」が育まれるようにと願いを込めて名付けられました。



参加者のほとんどが帽子をかぶり、整然と着席

広大な緑溢れる大地から
全国にアピール

岐阜県で開かれた全国植樹祭から約一年、今年には北海道での開催になりました。北海道で開かれるのは、支笏湖畔モーラップ地区で行われた、昭和三十六年の第二回大会以来四十六年ぶり二度目の開催。

全国の森林面積の約二五%を占める北海道は、地球温暖化防止対策や生息する多種多様な生物たちの保全、森林と人との共存など、これからの環境問題対策や自然とのつき合い方のモデルの一つとして、大きく期待されている地域です。それだけに今回は、北海道の特性を出しながら、継続した森林づくりの大切さを全国にアピールする大会になりました。



お手播きをされる皇后陛下



お手植えをされる天皇陛下

北海道を代表する 木々を植樹

参加者は約一万人。天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、赤城徳彦農林水産大臣や林業関係者、公募で集まった一般参加者約四〇〇〇人、さらに北海道警の警察官ほか約二〇〇〇人のスタッフが大会を支えました。

ほぼ全員に帽子の着用が義務付けられ、道内招待者や公募選出者、マスコミ関係者、運営スタッフなど参加する立場の違いで、オレンジや緑、白など帽子のカラーが分けられ、それぞれ指定された場所から大会に参加していました。式典前のプロローグは、カムイノミ（アイヌ民族による神への祈り）でスタート。アイヌの文化遺産を保存公開するために活動する財団法人アイヌ民族博物館の方々による、全国植樹祭の成功と参加者全員の健康を願うお祈りが行われました。

続いて、駒澤大学附属苫小牧高校の吹奏楽局によるウエルカムマーチング演奏が行われ、パフォーマンスを交えた軽快な音楽

は全国植樹祭に華を添えました。その後、会場に天皇皇后両陛下が到着し、式典が始まりました。

高橋はるみ北海道知事の挨拶などの後、天皇陛下からの御言葉、緑化功労者などへの表彰などが続きました。

そして、未来からの緑のメッセージと題したダンスパフォーマンスの後、天皇皇后両陛下によるお手植えやお手播きが行われました。緑の少年団の子どもたちが介添えを担当し、お手植えでは、天皇陛下は北海道を代表する針葉樹であるアカエゾマツやミズナラ、ハルニレを、皇后陛下はアカエゾマツやエゾヤマザクラ、ナナカマドをお植えになりました。また、お手播きでは、天皇陛下は北海道三五の市町村でシンボルツリーとされているイチイと野球のバットの材として知られるアオダモの種子を、皇后陛下はシラカンバとハマナスの種子をお播きになりました。種子を播かれてから介添えの子どもたちと楽しげに会話をされていた天皇陛下、苗木に盛られた土を素手でやさしく整える皇后陛下の姿が印象的でした。



アイヌの文化を紹介する財団法人アイヌ民族博物館の方々



赤城徳彦農林水産大臣式典に参加



苫小牧舞踊協会ダンスチームによるダンスパフォーマンス

次回の
シンボルマーク



もり
[森っち]

同じく公募で選ばれた来年秋田県で行われる全国植樹祭のシンボルマーク。東京都・市原麻奈美さんのデザインと、秋田県・菅真帆さんの愛称が選ばれました。水と緑の妖精をイメージし、水と緑を子どもたちが大切に育て、その恵みを受ける様子を表現しています。

今後の活動に
注目が集まる北海道

今回の開催にあたって、道民との協働による森林づくりと掲げられた開催理念。北海道にふさわしい、豊かな生態系をはぐくむ森林を守り、育て、将来の世代にしっかりと後世に引き継ごうという思いから、この理念になりました。豊富な森林は北海道の魅力であり、大切な資源でもあります。それだけに、その資源をどのように扱えば「美しい森林づくり」につながるのかなど、これからの森

林づくりを考えるきっかけになる、有意義な全国植樹祭だったと言えます。

森林は、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化防止、生物多様性保全等の公益的機能を有しており、国土の三分の二を占める森林を適切に整備・保全する、「美しい森林づくり」を進めることは、「美しい国創り」の礎となるものです。国土緑化運動の中心的行事である全国植樹祭を契機として、さまざまな森づくりの取り組みを今後とも持続的な国民運動として展開していきましょう。